

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向  
令和元年度 11 月

○ 概要

(1) 令和元年 11 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は 6,338 億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+1.9%）で、処方箋 1 枚当たり調剤医療費は 8,876 円（伸び率+0.9%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,679 億円（伸び率+3.1%）薬剤料が 4,648 億円（伸び率+1.5%）、薬剤料のうち、後発医薬品が 873 億円（伸び率+0.3%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋 1 枚当たり薬剤料 5,230 円（伸び率▲0.4%）を、処方箋 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.83 種類（伸び率▲1.0%）、24.1 日（伸び率+2.0%）、77 円（伸び率▲1.4%）であった。（→P.8,9）

(3) 内服薬の薬剤料 3,735 億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+24 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 662 億円（伸び幅▲26 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の+37 億円（総額 344 億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,735 億円 (+24 億円)	21 循環器官用薬 (662 億円)	11 中枢神経系用薬 (654 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(608 億円)
0 歳以上 5 歳未満	28.4 億円 (▲2.0 億円)	44 アレルギー用薬 (11.8 億円)	61 抗生物質製剤 (5.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (5.0 億円)
5 歳以上 15 歳未満	84.8 億円 (+2.5 億円)	44 アレルギー用薬 (30.4 億円)	11 中枢神経系用薬 (21.3 億円)	61 抗生物質製剤 (8.3 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,311 億円 (+22 億円)	11 中枢神経系用薬 (284 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(230 億円)	21 循環器官用薬 (201 億円)
65 歳以上 75 歳未満	876 億円 (▲14 億円)	21 循環器官用薬 (183 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(174 億円)	42 腫瘍用薬 (109 億円)
75 歳以上	1,435 億円 (+15 億円)	21 循環器官用薬 (274 億円)	11 中枢神経系用薬 (242 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(199 億円)

(4) 処方箋 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,876 円（伸び率+0.9%）で、最も高かったのは高知県（10,773 円（伸び率+2.6%））、最も低かったのは佐賀県（7,597 円（伸び率+1.0%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは高知県（伸び率+2.6%）、最も低かったのは山梨県（伸び率▲1.8%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注</sup>	79.6 %	+2.9 %
薬剤料ベース	18.8 %	▲0.2 %
後発品調剤率	76.0 %	+2.1 %
（参考）数量ベース（旧指標）	55.3 %	+2.2 %

注）【後発医薬品の数量】 / 【（後発医薬品のある先発医薬品の数量）+【後発医薬品の数量】】で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+0.3 %	+19.5 % (15 歳以上 20 歳未満)	▲9.9 % (65 歳以上 70 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.8 %	23.3 % (0 歳以上 5 歳未満)	13.8 % (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	79.6 %	82.1 % (60 歳以上 65 歳未満)	73.3 % (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	758 億円 (▲10 億円)	21 循環器官用薬 (230 億円)	23 消化器官用薬 (104 億円)	11 中枢神経系用薬 (98 億円)
0 歳以上 5 歳未満	8.5 億円 (▲0.2 億円)	44 アレルギー用薬 (3.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.8 億円)	61 抗生物質製剤 (1.4 億円)
5 歳以上 15 歳未満	18.5 億円 (+1.5 億円)	44 アレルギー用薬 (9.1 億円)	61 抗生物質製剤 (3.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.9 億円)
15 歳以上 65 歳未満	264 億円 (+6 億円)	21 循環器官用薬 (66 億円)	11 中枢神経系用薬 (48 億円)	23 消化器官用薬 (30 億円)
65 歳以上 75 歳未満	179 億円 (▲11 億円)	21 循環器官用薬 (70 億円)	23 消化器官用薬 (24 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(19 億円)
75 歳以上	288 億円 (▲7 億円)	21 循環器官用薬 (94 億円)	23 消化器官用薬 (50 億円)	11 中枢神経系用薬 (34 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,222 円	1,610 円(北海道)	1,036 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲0.7%	+1.3 % (山梨県)	▲3.7 % (富山県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	79.6 %	88.2 % (沖縄県)	73.2 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.8 %	22.3 % (鹿児島県)	16.3 % (徳島県)
後発医薬品調剤率	76.0 %	82.8 % (沖縄県)	71.0 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	55.3 %	63.8 % (沖縄県)	51.1 % (徳島県)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和元年11月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。